2021年 7月号 No.385

協歩 Handsome

～冷静と情熱～

Contents ●6月例会開催 ●第46期委員会を終えて ●会社の「当たり前」をやめた!を振り返って
●会長連載 ●河津孝彦の月刊ストライク!? ●こんにちは赤ちゃん ●景山慎也のホールインワン ●所属企業変更

◆鳥取県西部中小企業青年中央会　会 長 高塚康治　◆編集責任者／担当 副会長 恵比木　健　◆制作・編集 第46期ビジネスメディア委員会／委員長 柏木克仁

⑥月例会開催

【委員会活動の甲子園! 46期活動報告と47期方針説明の6月例会開催】

令和3年6月15日、第46期の活動を締め括る6月例会が、米子コンベンションセンターにて開催された。

第46期最後の通常例会の挨拶に立たれた高塚会長からは、当例会の開催準備を担当した卒会予定者及び新入会員に感謝を述べられた後、「ここ、米子コンベンションセンター小ホールは、野球で例えると高校球児の甲子園。私が1年前に発表したスローガンと方針に沿って、難しい情勢の中で活動してきた今期の委員長達の成長した姿を見る事ができるのが、本当に嬉しく思う」と、当期の締め括りとなる6月例会の開催を喜ばれていた。

また、会長挨拶の中で、今年の第40回全日本トライアスロン皆生大会開催中止にも触れられ、無念さを滲ませられると共に、今後も会として継続的な支援を行う事を述べられた。

続き、新入会員バッジ授与が行われ、田宮会員が今後の活動への抱負を発表された。

竹谷例会担当リーダーの趣旨説明の後にスタートした第46期活動発表報告では、【総務委員会・山内委員長】【ビジネスメディア委員会・柏木委員長】【政治行政委員会・仲佐委員長】【継続実行委員会・安達委員長】が、コロナ禍の中で各自が工夫を凝らした活動を行った事が発表された。残念ながら【地域の宝委員会・中西委員長】は諸事情により当例会への参加が叶わず、代わって委員会報告書での報告になる事が連絡された。

感染防止のため、恒例の副委員長による委員長の送り出しは控え目であったが、その中でも副委員長達の熱い気持ちの伝わる送り出しが行われた。発表を終えた委員長達は会長や担当副会長とグータッチを交わし、堂々と活動報告を終えた。

続き、第47期年度方針発表が行われた。登壇した奥森次年度会長が、第47期のスローガンを『彩（いろどり）』、活動テーマを『Be a player』と掲げられた。

「会が活動していくには、良い方向へ社会が向かいつつある。反面、不安定な状況であるという事。日々状況が変わる中活動していくためには、会員個々の経験と力が必要。様々な個としての色が交わり、その色が変化していく。その変化が成長であり、それを実践していくための努力と活動を会員1人1人が行っていく事を願う」と、スローガンと活動テーマを元に、活動方針を示された。

第47期の委員会も発表され、【総務委員会・景山委員長】【広報委員会・下村委員長】【ビジネス経営委員会・谷村委員長】【政治行政委員会・宇佐見委員長】【地域彩り委員会・安藤委員長】の組織も明らかとなった。各委員長より挨拶と活動の抱負も力強く述べられ、次年度の西部青年中央会の発展と目覚ましい活動を予感させながら6月例会は閉会した。

（記事：石田）

6月例会を終えて

ビジネスメディア委員会　竹谷 友成
（米子鉄工サービス有限会社 営業部長）

新型コロナの感染者数次第で、通常の開催すら危ぶまれた6月例会でしたが、46期卒会予定者と新入会員の担当で、何とか予定通りの開催に漕ぎつけることができました。当日参加していただいた現役会員の皆様、ありがとうございました。

例年、6月例会といえば、委員会報告と次年度会長による方針発表がメインの為、毎年ルーティーンのような形式で行われている事は関係者の皆さんならご存じのことと思います。

ですが、このコロナ騒動がつづく1～2年、中海圏域や青経連等の他団体との交流事業や、東部・中部との合同で行う県青中の事業の多くが中止になり、中には例会や委員会すら開催できない月もある有様。卒会者は不完全燃焼気味、新入会員は平年なら経験しているいくつもの体験をできないまま時を過ごしていました。ですが、そんな中、この6月例会を担当した事で、卒会者からは新入会員にいくばくかの経験を伝え、また新入会員には例会を運営した後の達成感・充実感を体験してもらえた事で、この先の例会参加に対する意欲向上に繋がり、担当する際の心構え等も知って貰う事が出来たのではないかと思います。そういった感じで、ささやかながらでも、次年度以降の中央会に貢献できたのであればうれしく思います。

この約二か月間、準備に協力いただいた担当メンバーの皆様、いろいろと尽力いただき、様々なアドバイスをいただいた木嶋専務、そして我々にこの役割を与えてくださった高塚会長、心より感謝します。ありがとうございました。

第46期委員会を終えて

過去に総務委員会に配属されたことのない私が総務委員長を務めるということで、足立副会長にはご心配ばかりかけた一年であったと振り返りますが、景山副委員長をはじめ委員会メンバーのサポートにより何とか乗り切ることができました。

通常総会懇親会、新年例会、OB交流会と核となる事業が中止となり残念な思いもあります。しかし、新入会員アトラクション、レクリエーション委員会、ビジネス経営セミナー、お地蔵様プロジェクトステージ部活動、そして繁浪先輩の送り出しと様々な取り組みを行うことができました。委員会メンバーが一年を通して経験したことを47期以降の活動に活かしてくれると信じています。一年間ありがとうございました!

第46期総務委員会委員長　山内正樹（有限会社サンユービルド 代表取締役）

今期、継続実行委員会は、当会の二大継続事業、全日本トライアスロン皆生大会と大山お地蔵さまフェスティバルと向き合い、継続事業をこれからも実行していく為の重要な委員会となりました。委員会テーマとして掲げた「Renovation」を実現する為、委員会メンバーには会全体を引っ張っていく姿勢で1年間活動して頂きました。

この1年間はあっという間に過ぎたと感じました。委員会・例会だけでなく、計4回を数えた第6回大山お地蔵さまフェスティバル実行委員会も開催し、その準備にご協力頂き感謝の一言に尽きます。実行委員会が進むにつれて、厚くなった資料は目に見えた成果となりました。

継続事業が今後5年、10年先にもしっかりと続いて行き、振り返った際にこの1年間が大きな転機となったと言えるように、今後の中央会活動に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

継続実行委員会委員長　安達信彦（株式会社 平設計 設計課長）

今期、委員会活動の目的の1つに、委員会後の懇親会を通じてメンバーの人となりを知り、お互いが繋がりを深めることで、今までと違う考えや価値観が生まれるのではないかと考えました。各々が個性を存分に発揮し表現するため、委員会タイムと卒会予定者へのおもてなしタイムを設けました。委員会タイムでは皆さんが予想以上にクオリティーの高いプレゼンをされ、メンバー間の距離が縮まり一致団結していく機会になりました。おもてなしタイムでは、内に秘めているネタを披露する方や、体を張った体育会系のノリでおもてなす方など様々でした。今期は、委員長として本当に楽しい時間を過ごさせていただき、私自身が活かされた委員会となりました。

ビジネスメディア委員会委員長　柏木克仁（有限会社育成　専務取締役）

1年間を終えて振り返ってみますと、委員会が始まる前から最後の委員会まで新型コロナウイルスの影響があり、活動も思うように行かない部分もありましたし、委員会メンバーの皆様も会に出づらい状況だったと思います。そうした中でも沢山の方に出席いただき、ご意見やアドバイスを沢山頂戴しました。ありがとうございます。

政治行政委員会は委員会テーマを『謙虚』とし、活動してまいりましたが、私自身本当に学びの多い1年間になったと思います。こうして無事46期の委員会を終える事が出来るのも委員会メンバーを始め、会員の皆様、応援していただいた皆様のおかげだと思っております。この感謝の想いを今後の中央会活動でお返ししていければと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

政治行政委員会委員長　仲佐大志（株式会社あしがる 代表取締役）

委員会メンバー、役員の方々、会員皆様のご協力があって一年間務める事ができました。

一年間をとおして楽しい事だけではなく、苦しんだり、悩んだりと色々な事がありましたが、その分だけ私自身も成長ができたのかと思います。「委員長が言うなら」とついて来てくれた委員会メンバー、そして委員長としての貴重な時間を与えていただきました高塚会長に感謝申し上げます。

一年間ありがとうございました!

地域の宝委員会委員長　中西悠介（株式会社LABO 工事部次長）

『会社の「当たり前」をやめた!』を振り返って

第一編集部

ハンサム連載企画「当たり前をやめた」の振り返りということで、まずはたくさんの経験をすることが出来たという思いです。社会人になってから取材をする機会って全くありませんよね!?そこを経験出来たこと。それぞれの企業の思いや考え、経営戦略等を知る貴重な機会になったこと。自社のことを改めて考え直す機会になったこと。など全てが良い経験です。新型コロナの影響により様々な環境の変化があり「当たり前をやめた」というのは継続して考えていかないといけないテーマの1つであると思います。今後も常に考えながら日々行動していきたいと思います。

最後に、取材を受けてくださった企業の皆様、記事を一緒に作り上げた委員会メンバーの皆様、誠にありがとうございました。

(第一編集部　サブリーダー)渡部直哉
(中浦食品㈱　大漁市場なかうら店舗統括マネージャー)

第二編集部

早いもので46期ももう終わろうとしています。

私は45期の2月に入会したので、通年で活動したのは今期が初めてです。

第1回委員会において、「当たり前をやめた」とのテーマで取材をし、記事を書くということを柏木委員長から聞いたときは、「そんな時間はない」と内心思っていました。

しかし、今ではやればできるものだと感じています。時間を何とか作って、編集部のみなさんと意見を交換して、なんとか毎回取材をし、記事を作成することができました。

また、当初編集部のサブリーダーでしたが、いつの間にかリーダーになり責任感を感じられたことも良い経験になりました。

ビジネスメディア委員会の皆様、特に同じ編集部だった石井美佳会員、竹谷会員、石田会員には様々な面で支えていただき感謝しています。

この1年は私にとって、それまでとは違う経験を多く積むことができた、まさに「当たり前をやめた」1年でした。

(第二編集部　サブリーダー)小原武史(弁護士法人アザレア法律事務所)

第三編集部

当初は柏木委員長から説明を受けても「当たり前をやめた」についてのイメージが浮かばずにいました。他の編集部の企画記事を読んだ時、企画会議で第三編集部の皆さんとの意見交換をした時にも同様でした。しかし、取材で相手について深く聞く事や、集めた情報から記事を書く事。記事を通じて新たな視点に気が付く事。記事をチェックし手直しをする事。記事を見てもらう事。それらの全てが、ビジネスに通じる活動なのだと感じました。また、これらの事を体験して勉強できた事自体が私自身の「今までの当たり前をやめた」事になったと感じています。最後に1年間一緒に活動した編集部の皆さん勉強させて頂きありがとうございました。

(第三編集部　サブリーダー)狩野智邦
(株式会社プラスサポート トータルリスクコンサルタント)

『会社の「当たり前」をやめた!』の総括

第46期ハンサム連載として『会社の当たり前をやめた!』と題して、9本の企画を記事にしてきました。様々な業種にフォーカスすることで、事業の課題や長所などを垣間見ることが出来ました。また、刻々と変化する地域情勢に対して、否定的に捉えるのではなく肯定的に捉え、逆境から新たなビジネスモデルを創り出す考え方や手法を取材することが出来ました。企業には、それぞれの背景やストーリーがあり、それが経営理念や商品価値へ活かされていくこと、そして組織体制を充実し地域のニーズに即した新たな価値が創られていくことを感じました。取材を通じて会社の当たり前を多様な視点で捉え、柔軟な発想によって「当たり前をやめること」が、より魅力のある価値へと彩られていくのではないでしょうか。この度の連載では、ご多忙中の取材にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

(ビジネスメディア委員会 委員長)柏木克仁(有限会社育成 専務取締役)

県事業を振り返って

県出向理事
渡邉公平

第46期県出向理事として県の親睦・情報委員会で1年間活動させていただきました。担当事業の親睦事業については期首から委員会内で話合い、どの様な形で東・中・西部の会員間で親睦が深められる事業は何かと話し合いをしてきました。そしてしっかりと感染対策をして、コロナ禍でも出来るソーシャルディスタンス運動会を企画いたしました。しかしながら5月29日(土)に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの全国的な蔓延や開催間近に鳥取県内での感染拡大が広がり残念ながら事業は中止となりました。そういった中でも事前に取った出席確認では多数の方に参加の表明をして頂きありがとうございました。

今後の新型コロナウイルスの状勢がどうなっていくかの見通しがつきませんが、第47期の県の主幹は西部ですので、会員一丸となって県事業を引き続き盛り上げて頂きたいと思います。1年間皆さまありがとうございました!

会長連載

勇気ある一歩

～クールヘッド・ホットハート～

第46期 会長　**高塚　康治**

この連載もいよいよ最終回です。第46期の活動にご協力いただきましたすべての皆さま、本当に一年間ありがとうございました。スローガンを「協歩」と決め、手帳のカラーをグリーン（当時の私のオーラ）とし、スタートいたしました。コロナのおかげで、当たり前のことがじつは当たり前ではなかったこと、やっぱり大事にしなければならないこと、たくさん見えてきたような気がします。活動が制限されるなか協力して事業をつくられる会員の皆さんの姿をみて、ずいぶんと勇気づけられました。改めて中央会の力も感じることができました。少し止まりながらも歩んできた46期、私のオーラもいつものブルーに戻り、彩り鮮やかな活動を期待し、第47期へバトンを渡したいと思います。皆さんありがとうございました!

河津孝彦の月刊ストライク!?

河津孝彦（㈲サンイン興産　専務取締役）

月刊ストライク第2回目となりました。こちらではボウリングの面白さや解説、醍醐味についてご紹介していきたいと思います。今回もスプリットメイクを解説していきます。画像は⑧番ピンと⑩番ピンが残っています。ピンが平行に並んでおり、尚且つ間のピンが倒れていて離れた形での残り方を「レイルロード」または「シンシナティ」と呼びます。名前だけ聞くと格好よく聞こえますが、これが残って頭を抱えてしまう方も多いと思います。ですが大丈夫です! 前回の記事で「ビッグフォー」を倒したあなたならこのスプリットメイクは簡単です! ⑧番ピンを真横に飛ばして⑩番ピンを倒すだけ!「ビッグフォー」の第１関門を突破するだけで「シンシナティ」はクリアです! とはいえ難易度は高いです。スペアを取ろうと投球後、良い所にボールが転がって緊張感が走る、⑧番ピンにボールが薄く当たり横に飛ぶ! 呼吸が止まる! ⑩番ピンが倒れる! 緊張感から解放されるのと同時に天を仰いで拳を高々と上げ叫ぶ! ストイラクだけが興奮するものじゃない! ボウリング最高です! 満面の笑みで戻って仲間と喜び合いましょう!

企業名変更のお知らせ

仲佐大志 会員
（変更前）ライフメンテナンス
（変更後）株式会社　あしがる

前田会員第二子ご誕生

皆様、お世話になっております！私事ですが5月30日の早朝、第2子が誕生しました。名前は、英姿颯爽という言葉の似合う男に育ってもらえたらという思いで、颯太(ふうた)と名付けました。これからも公私ともよろしくお願い致します！

前田孝二
（株式会社中海葬儀社 取締役統括本部長）

景山慎也のホールインワン

景山慎也
（サンクリーン株式会社 取締役営業部長）

この企画の依頼を受けた時、達成した事ないのに何を書くのか…汗

ゴルフをする人であれば一度はやってみたいと思うのは当然ですが、ホールインワンの確率から考えると相当ラウンドしないとまず無理です。そしてグリーン方向に打てることが最低条件でしょうか。過去２人のホールインワンを同伴で見てきましたが、いずれもバンカーの縁や花道からピンに向かって吸い寄せられていく感じ、アレアレ？っという間にカップイン。私とラウンドを共にしてくださった方はご存知かもしれませんが、私の弾道は高いです。という事は、180Y以上あるホールかトップ気味にあたって弾道が前に前に推進する弾道でなければカップインさせるのは非常に難しいと結論付けました。ちなみにトップ球を打つのは得意な方です…狙ってないですが…。プレ4とセカンドでのショットでダイレクトインがありますが、お題のホールインワンではありませんのでホールインワンにはカウントしていません(笑)。最後になりますが、万が一の為に保険には入っていますので、いつの日か利用する事を夢見て楽しくラウンドしていきたいと思います！

7月役員会報告

令和3年7月1日（木）ANAクラウンプラザホテル米子にて新旧役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 第6回大山お地蔵さまフェスティバルの件
- 6月例会開催の件
- 鳥取県中小企業青年中央会の件
- 総会・卒会式開催の審議
- 7月例会の開催の審議　•8月例会開催の協議

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

地域によっては64歳以下のワクチン接種案内が届いているようですね。塩野義製薬が開発するまで接種を控えるか考え中です。とりあえず今月をもって卒会となりました。ちょっと寂しいようなホッとしたような今日この頃です。

（ビジネスメディア委員会 松井淳一）